

2022年9月6日発行

22-36号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**老いる前に**

９月には敬老の日があります。寿命が長くなり100歳以上の方々も多い時代です。どのように老いを迎えるのか、そのことについて、精神科医の和田秀樹氏が書いた著書『老人入門 いまさら聞けない必須知識20講』から紹介している記事がありました。

和田氏が勧めているのは、60代、70代で、自分が老いたとき、どのように生きるかを考えようということです。和田氏は、思春期が「どんな大人になるか」を思い悩んだり考えたりする時期だとすれば、自分がどういう老人になってどんな人生を送っていくかを考えるのが思秋期だということで、その思秋期に「こういう年寄りになりたい」という具体的なイメージを描こうと言われます。なぜなら、完全に老いてしまって脳の老化が進めば、意欲もときめきもなくなってきますから、静かな老いとか穏やかな暮らしといったイメージしか浮かんでこなくなるからだということです。

和田氏が言われるのには、老いればいろいろ背負っていたことから自由になるので、わがままで奔放なイメージを描いたら良いということです。たとえば、「オレは家になんか居たくない、愛車に身のまわりのもの一切積み込んで旅から旅の人生を送りたい」「孫の面倒なんてつまらない、自分の時間は自分の好きなこと、やりたいことだけやっていたい」「まだまだオシャレだってしたいし、髪の毛も思い切り明るい色に染めてみたい。いままで我慢していたこと全部やってみたい」などということ、現役時代に仕事に追われてやり残したこと、世間体とか常識に縛られて手を出せなかったこと、あるいは失敗したときのダメージを考えて自重してきたこと、そういったものの中から「年寄りになってしまえばできるかな」と思える物事を考えて、挑戦できることを考えるということです。そうすれば、人生に張り合いや意欲が生まれてきて、感情も大いに若返り、自分が高齢になることへの不安より希望のほうが膨らんでくるはずだと言われています。（9月5日マネー現代＜60代・70代から「不幸になる人」には、じつは“意外な共通点”があった…！「幸せな老人」になるには…＞より）

人には老いへの不安があります。それを考えるのではなく、希望を持てるように、少し早めから準備しておけば、好きなことをして奔放に生きて満足だったと言えるということでしょうか。しかし、人生は思ったようにはいかないことが現実です。実際に、思い描いたとおりに旅に挑戦したり、我慢していたことをやってみたりしても、本当はどこか不安で「これで良いのかな」と思うだけのはずです。ほんとうに有意義な人生とはなんでしょうか。また、老いてしまったと感じる前に知るべき根本的なことはなんでしょうか。老いるのではなく成熟する秘訣、それについていっしょに考えてみませんか。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください